

(公財) 大阪産業局 ビジネスサポートデスク (インド)

南インド通信 2022 年 3 月号: 日本の作法・インドの作法

ベンガルールよりナマスカーラ!

世界の常識が変わって丸 2 年、その間ちょうど時を同じくして、大阪企業にインドを紹介する活動を続けてきた。

当地で出会う事業家も学生も、今や当然、常にスマホが傍らにある。会話の中で知らないことや疑問に思うことがあれば、即座に検索したり詳しく知り合いに聞いたり、というのが日常の振る舞い。紹介の紹介で新たな誰かと繋がれば、今日か明日か遅くとも翌週には、「何から一緒に始めようか」となる。時に会ってみて期待と違ったり、都合が合わない内に忘れてたり、という結果にも至るが、互いの共通項を探って共に動いてみるのが常道だ。

翻って、何事においても“道を教わる”のを基本に育てられる日本人。高等教育も企業研修も“道を外れる”ことを極度に嫌うから、知らないことに直面すると思考停止に陥ってしまう悪い癖がある。

日本人がよく知る“道”には収まりきらず、毎分毎秒、何の脈略もない新たな事象ばかりが目の前に現れるインド。初対面の相手であっても、その時・その場で即興劇を演じる必要があるのだが、まだまだそんな“インドの基礎理解”が足りていないようだ。正解はない、計画通りにいかない、VUCA の世の中においては、まず動いてみて、自らの感覚を信じて歩みを進めるしかない。はじめの一歩として、“その道のインド人に聞いてみる”ことから、業界動向や参入の端緒を探る企画も始めてみた。2022 年・令和四年が“印道”元年となることを願って。

(本稿にて大和合同会社による支援は終了しますが、引き続き南インドにて「イノベーションの実験室」としてサービスを開発・提供して参ります)

以上

◎過去に掲載されたレポートは、以下のサイトをご覧ください。

https://www.obda.or.jp/events/ibo_events_all/overseas-from-india